

中国人の特徴

菊池 幸太郎

今回は大学での「活動(活動)」を通じて感じた中国人の印象について書きたいと思います。

活動とは主に大学関係の行事のことです。山西大学では様々な活動があります。入学式、音楽会、スピーチコンテストなどがありました。そのうちの一つに、小学校へのボランティアがありました。内容は2日間で小学生との交流、英語の授業のサポートなどでした。多くの小学生は外国人を見るのが初めてで、とても興奮していました。特にナイジェリア、コンゴ共和国のアフリカ出身の留学生の周りにはたくさんの小学生が集まっていました。逆に日本やアフガニスタン出身の学生は彼らに比べて、人の寄りには少なかったです。そこで、小学生は初めて見るアフリカ人の髪の毛に興味津々で、好き勝手に触っていました。多くの方は好奇心旺盛な小学生だからこその行動かと思いますが、意外とそうでもありません。自分の仲の良い友達はナイジェリア人とコンゴ人なのでよくバスなどを利用して、太原市まで遊びに行きます。その際、珍しいアフリカ人を見て、「肌を触っていいか」「髪の毛を触っていいか」などの質問を聞いたことがあります。しかも一度きりではなく、何度かそのような場面を見ました。また、自分が中国人ではないと知ると、周りの中国人はじろじろと見てきます。文面的にみると、あまり良い印象ではないですが、中国人はとても正直なのだと思います。

この特徴は良い面でも見られます。ある時、満員のバスに乗っていると、立っているお年寄りの方を見て、運転手が急に激怒したのです。わざわざバス停ではないところにバスを止め、その方を席に座らせました。おそらく、日本では見ることのできない光景だと思います。このように中国に住んでみないとできないような体験をできるのが長期留学の良い点だと、改めて感じました。

今回紹介する食べ物は水滸烤肉(shuihukaorou)です。この食べ物はあまり有名ではありませんが、とてもおいしかったので、ぜひ紹介したいと思いこれに決めました。おそらく中国人でも食べたことがない人が大方だと思います。連れていってもらった中国人によると、昔の中国人は写真のように大きな串に肉などを刺して食べていたそうです。材料は肉、野菜などで、串焼きに似ています。自分でテーブルに設置されている、石焼きで焼いて食べます。また、味付

けは孜然(ziran)と呼ばれる中国のスパイスをつけて食べます。おそらく日本で食べるのは難しいと思うので、中国に来た際は一度食べてみてはいかがでしょうか。



上 串はかなり大きいです
左下 孜然をつけます
左下 ボランティアの様子です

